

参議院選挙に関するアンケート 調査結果

株式会社中広(本社:岐阜県岐阜市 代表取締役社長:後藤一俊)が運営する中広マーケティングリサーチでは、この度、中部圏のモバイルフリモ会員を対象に「参議院選挙」についてアンケートを実施し、調査結果をまとめております。

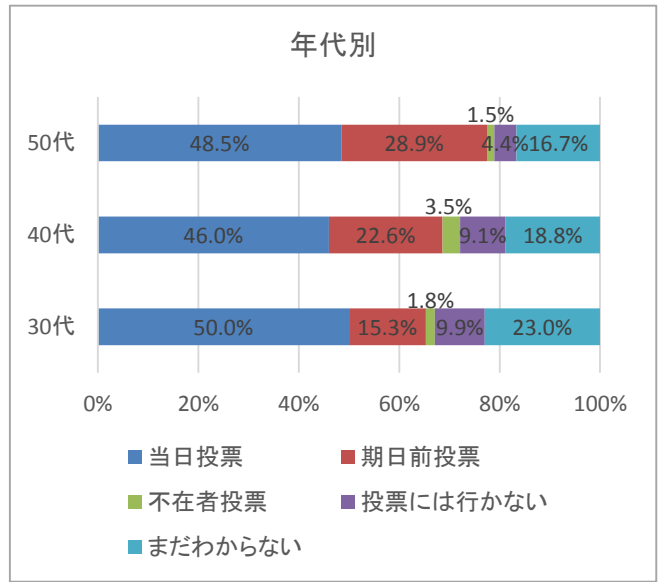
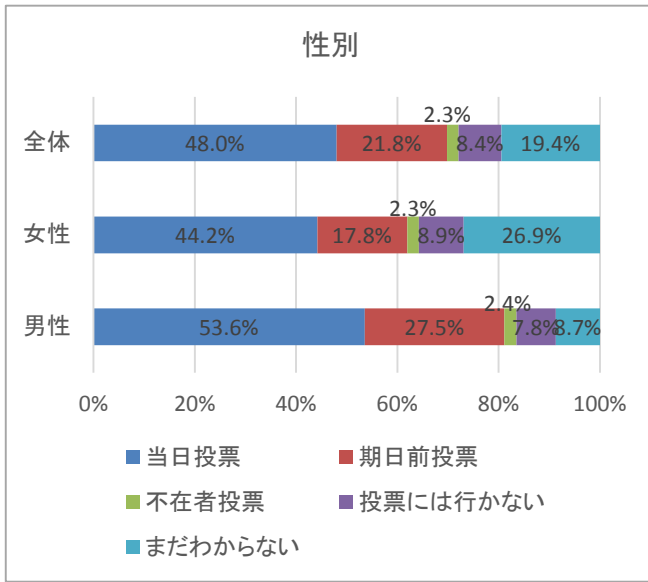
中部圏における選挙・政治・政策に対する意識を把握するため、選挙の投票行動と併せて、憲法改正への評価と「女性活躍推進法」に関連付けてワークライフバランスに関する調査を行いました。

<調査結果ハイライト>

- ・参議院選挙に投票する予定 72%
[投票する方の投票する理由] 当然だと思う 63%
[投票しない方の投票しない理由] 面倒だから 33%
 - ・安倍内閣を支持している 18.2%
[支持する派] 憲法9条改正に賛成 66% 憲法改正に賛成 76%
[支持しない派] 憲法9条改正に反対 78% 憲法改正に反対 62%
- 【「女性の活躍推進法」と関連してワークライフバランスについて質問しました】
- ・ワークライフバランスの認知度 46%
 - ・ワークライフバランスを実現している 23%
 - ・ワークライフバランスを実現するためには
「自身の職場の労働環境改善」が必要 52%
 - ・18歳選挙権導入で期待できる効果は
「若年層の政治への関心が高まる」 48%

7月10日の参議院選挙に行く予定の方は72%であり、今回の選挙への関心の高さが伺えます。改憲に関する賛否は、内閣の支持・不支持への意向が反映される結果となりました。ワークライフバランスの「認知度」は46%にとどまり、「実現している」の方も23%と浸透度は低いです。また、ワークライフバランスの実現にあたり、職場の労働環境改善が課題といえるでしょう。

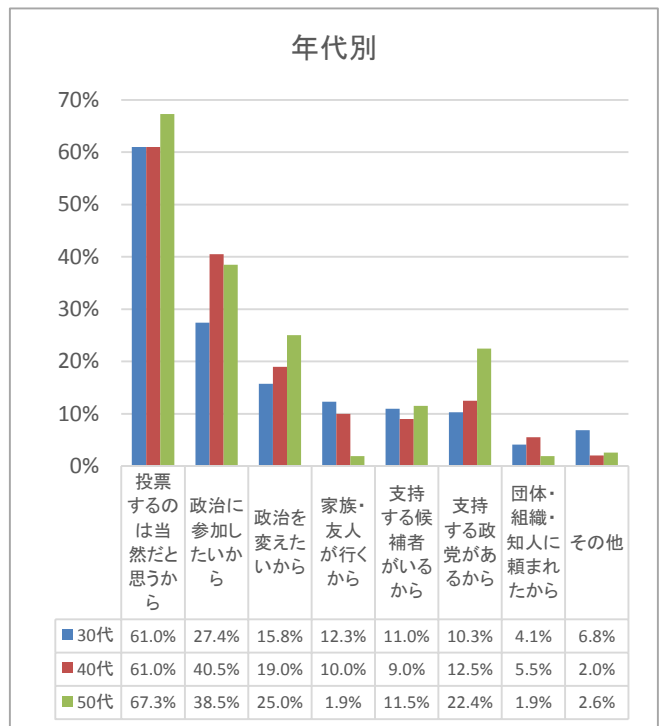
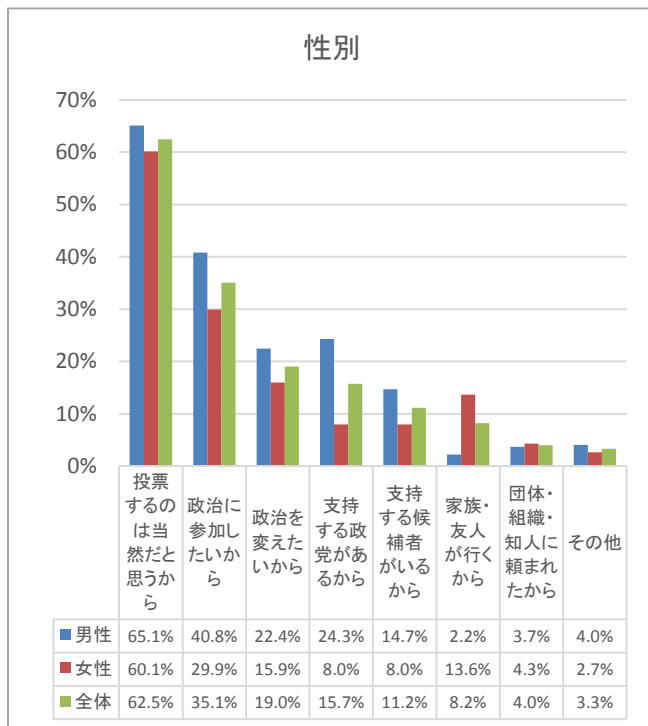
1. 今回の参議院選挙で投票しますか？



今回の参議院選挙で「投票する」予定の方は72.2%という結果になりました。女性よりも男性の方が多く「投票に行く」と回答しています。「期日前投票」については男性が27.5%、年代別では50代が28.9%と高いことがわかります。

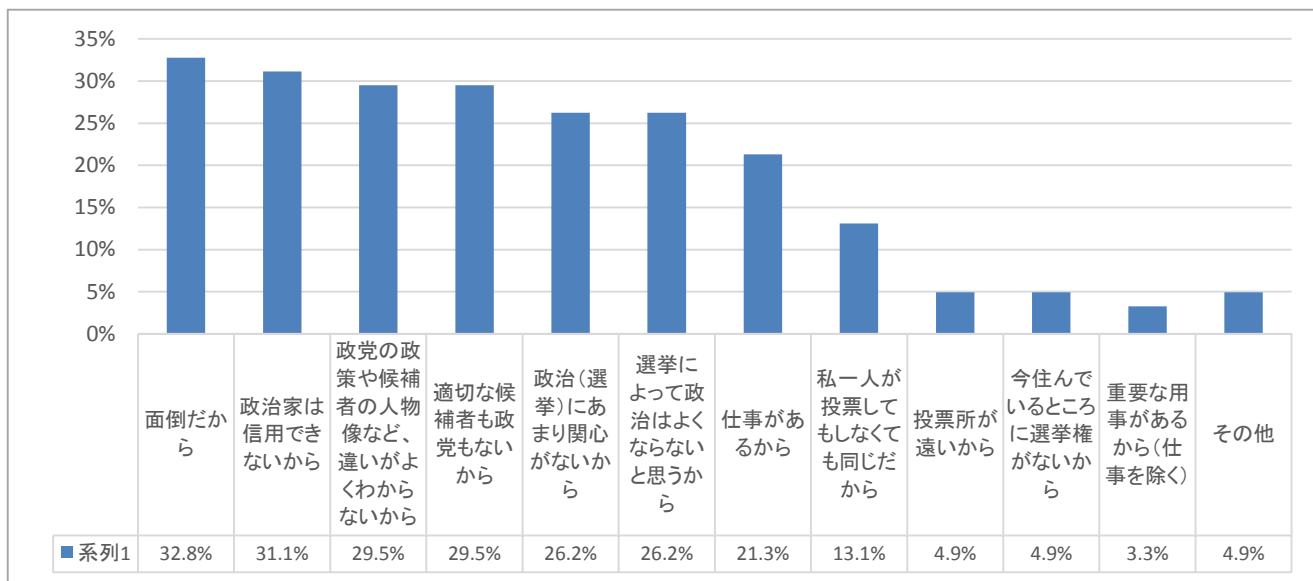
注) 年性別の比較においては十分な標本数を得られた30代、40代、50代を対象としております(以下、同様)。

2. 「投票する」方は理由を教えてください



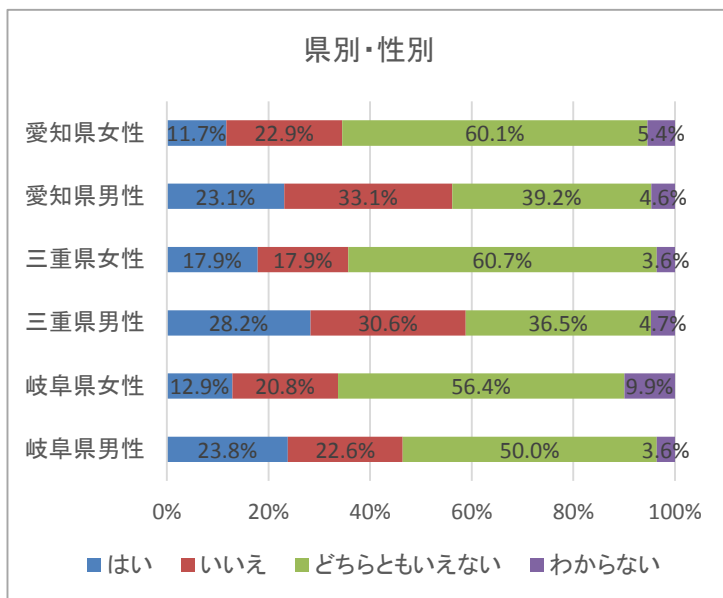
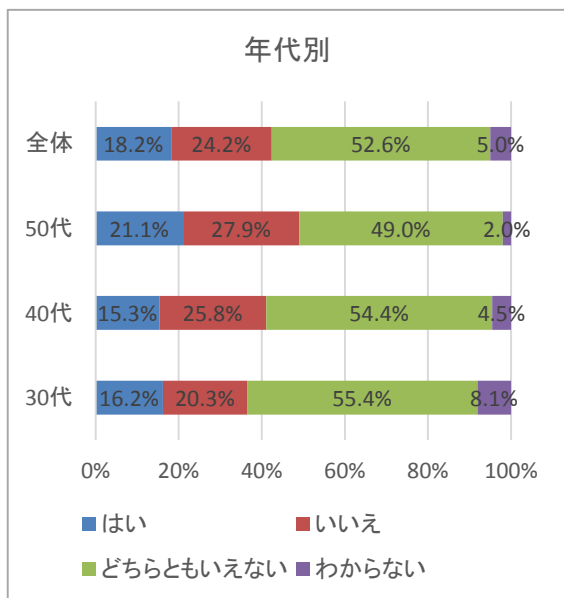
「投票する」と回答した方の投票する理由は、「投票するのは当然だと思う」が62.5%と最も高いです。男性は「支持する政党がある」・「支持する候補者がいる」の比率が高く、年代が上がるにつれ「政治に参加したい」・「政治を変えたい」という意見も多くみられました。

3. 「投票しない」方は理由を教えてください



「投票しない」と回答した方は、投票しない理由として「面倒だから」が一番多く(32.8%)、次いで「政治家は信用できないから」という不信感が挙げられました(31.1%)。

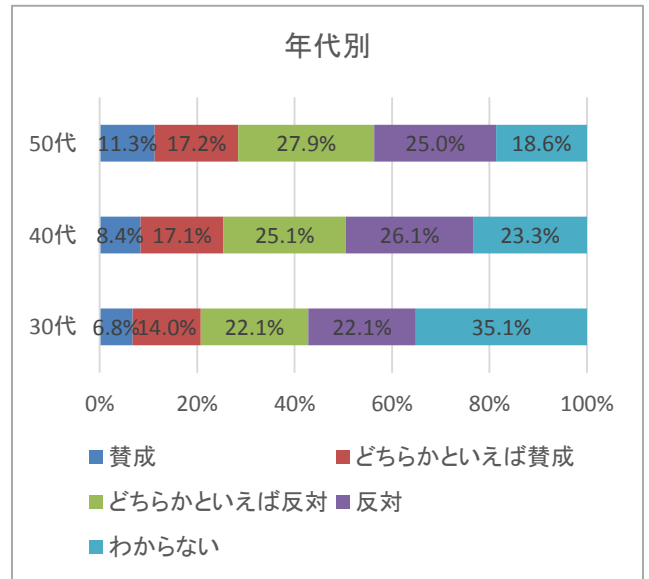
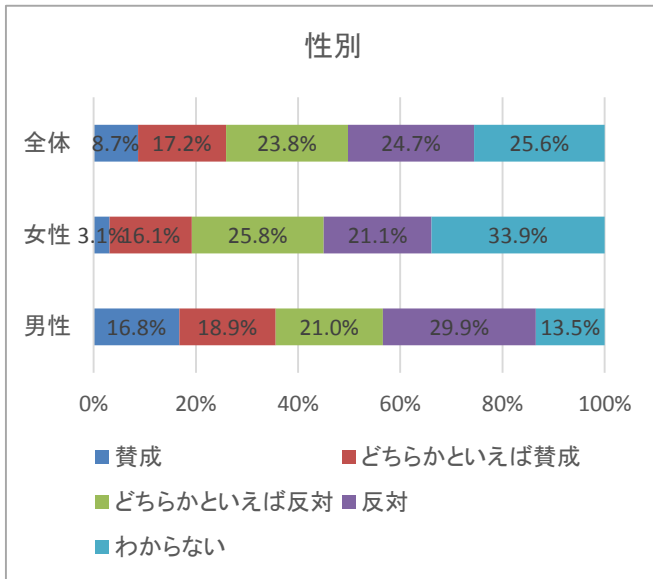
4. 安倍内閣を支持していますか？



安倍内閣の支持について、すべての年代で「支持しない」が比較的多い結果となりました。年代が上がるにつれ「どちらともいえない」「わからない」が減り、支持・不支持の意向が明確であることから、政治への関心の高さが伺えます。

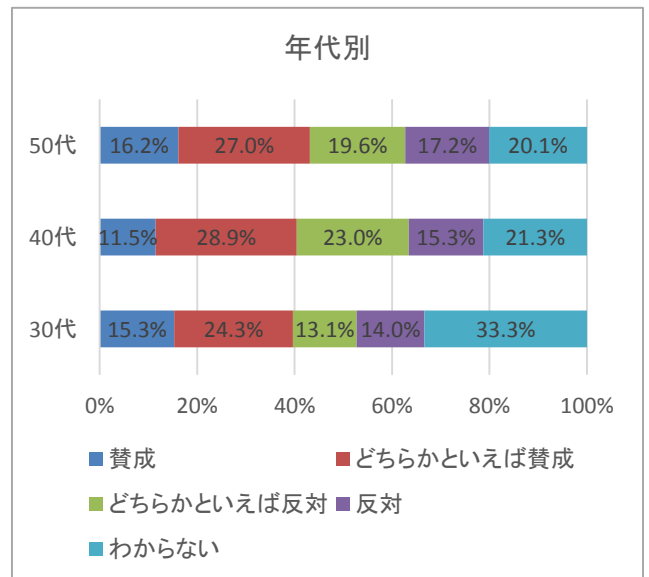
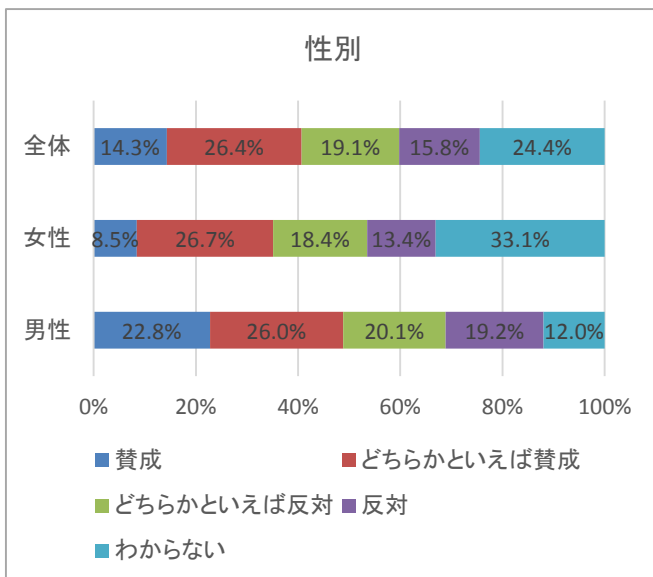
性別では、男性の方が相対的に支持・不支持の意向が明確であり、特に三重県男性はその傾向が強くみられます。一方、岐阜県は「どちらともいえない」「わからない」の比率が相対的に高い結果となりました。

5. 「憲法9条」を改正する動きがありますか、どう思いますか？



憲法9条の改正について、男性と女性で大きく異なり、女性は「わからない」の比率も高い結果となりました(33.9%)。一方、年代が上がるにつれ「わからない」の比率が減少する傾向がみられます。

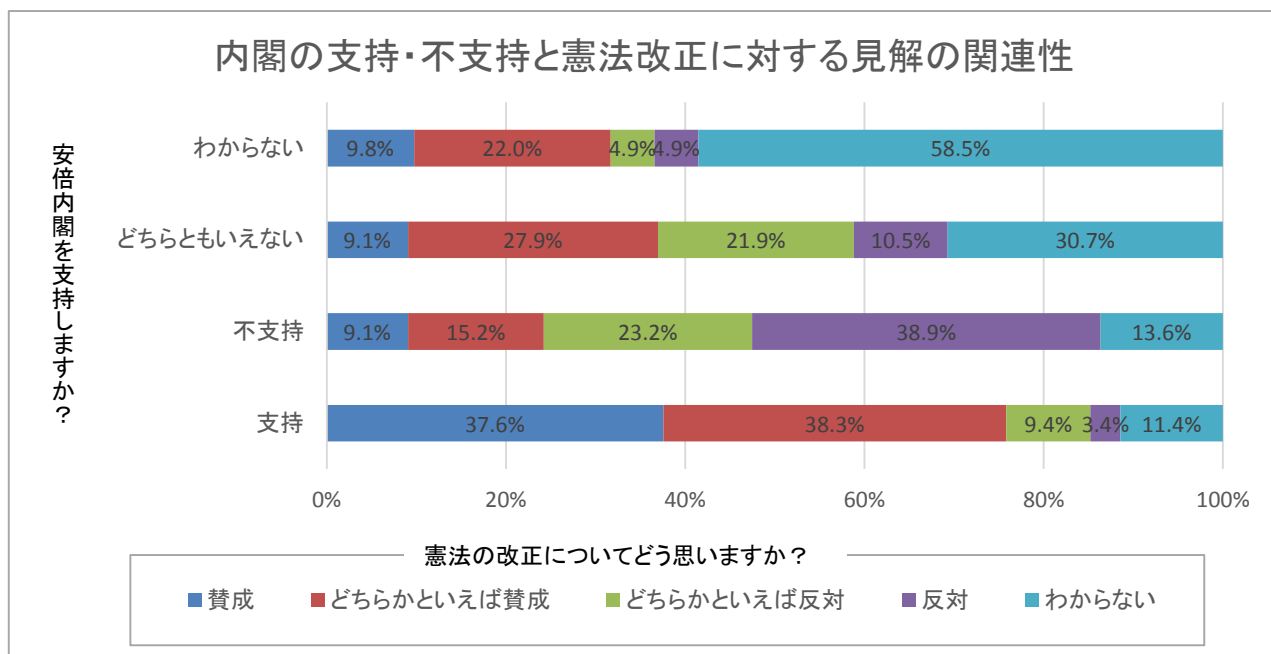
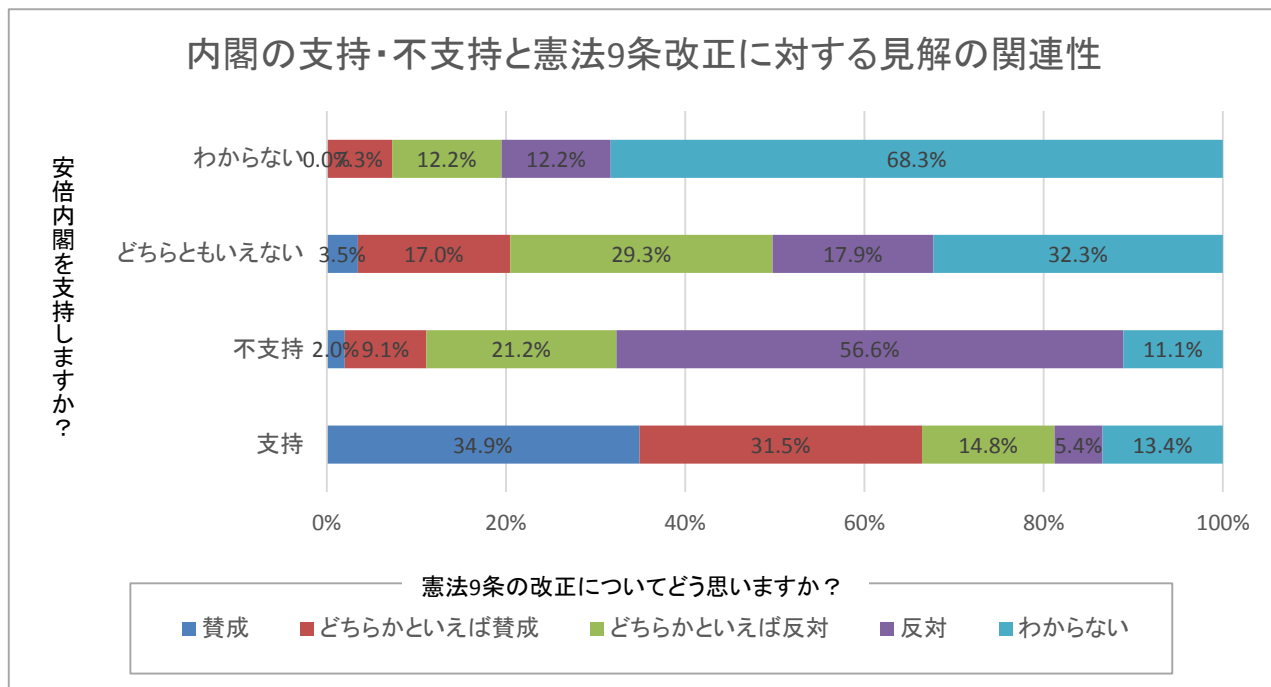
6. 憲法を改正することについてどう思いますか？



9条に関しては「反対」の意見が比較的多い一方、憲法自体の改正については「賛成」の意見も多くみられました(40.7%)。

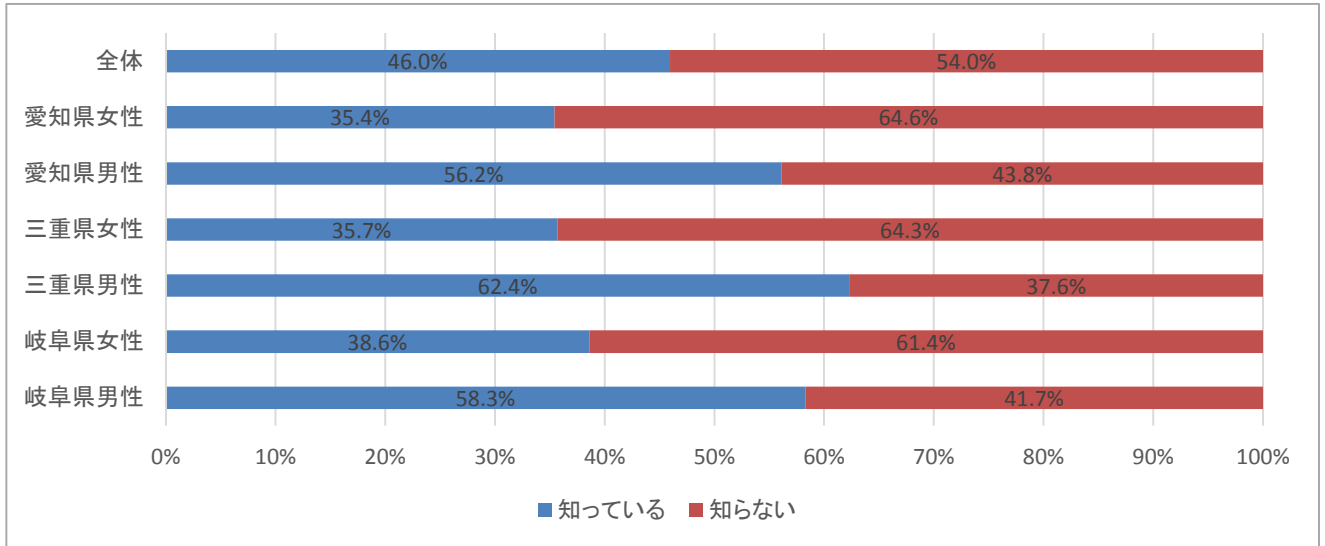
女性と30代の約3割は「わからない」と回答しています。30代と40代・50代では「反対」と回答する比率に差があり、年代が上がるにつれ反対意見が増加しています。30代は法律を改正することに対する抵抗が小さい方が多いのかもしれませんが。

内閣の支持・不支持与改憲への考え方には関連性がある



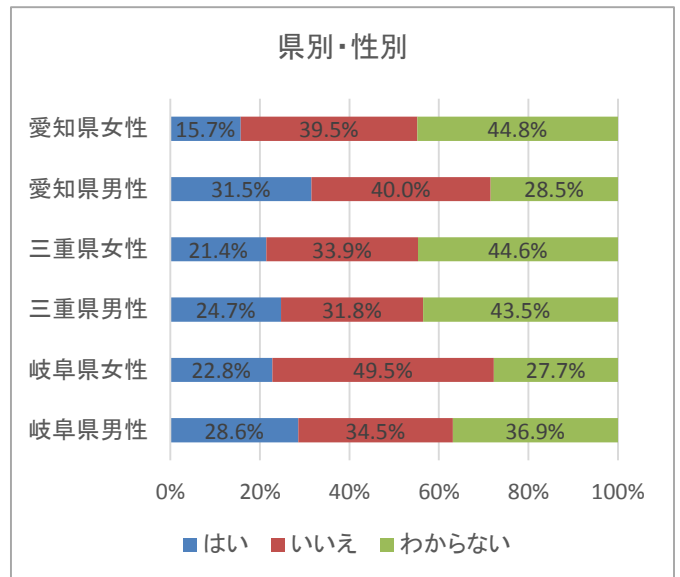
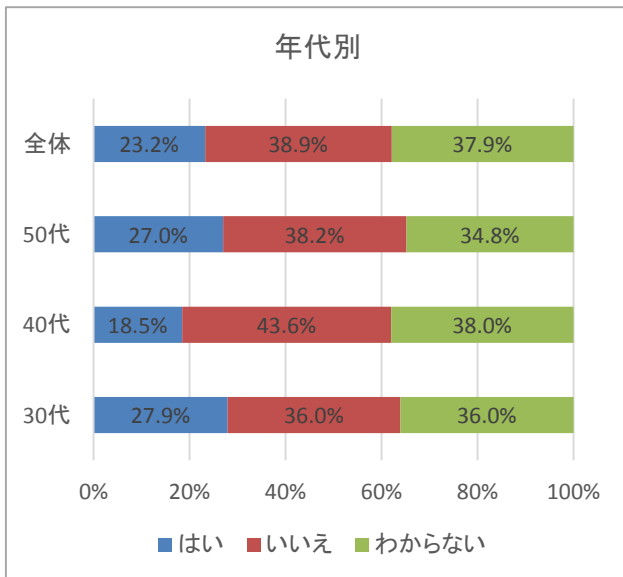
安倍内閣の支持・不支持与改憲に関する意見の関連性を調べたところ、「支持する」と回答した人は憲法9条改正、憲法改正に対し「賛成」と回答した比率が高く、「支持しない」と回答した人は憲法9条改正、憲法改正に対し「反対」と回答した比率が高くなりました。「どちらともいえない」・「わからない」と回答した人は憲法9条に関しては「反対」が多く、憲法改正に関しては「賛成」が多い結果となりました。

7. ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)をご存知ですか？



「ワーク・ライフ・バランス」の認知度は46.0%と半数以下でした。男性のほうが比較的認知度が高い結果となりました。

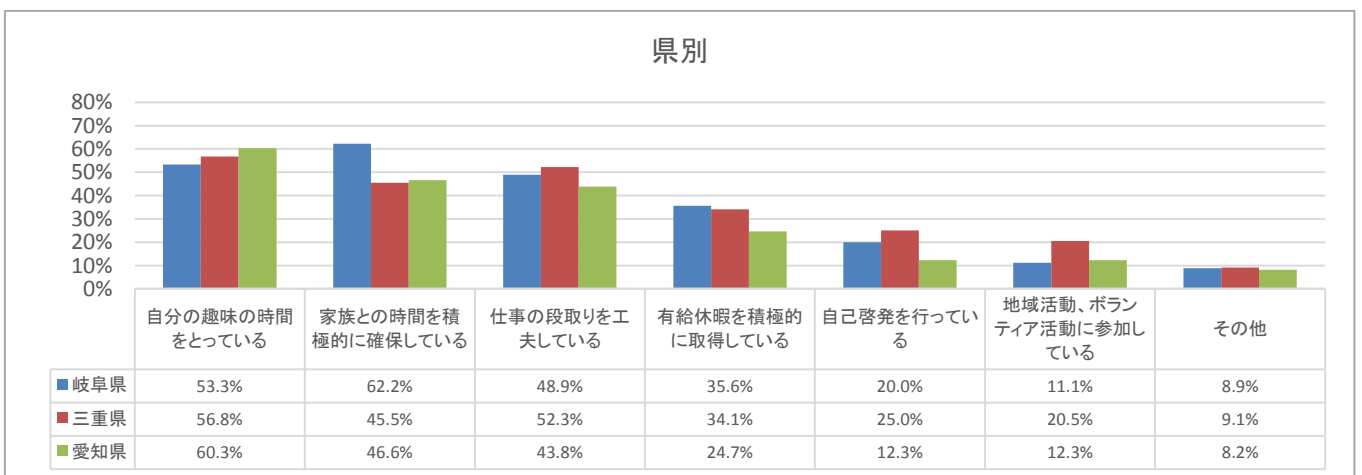
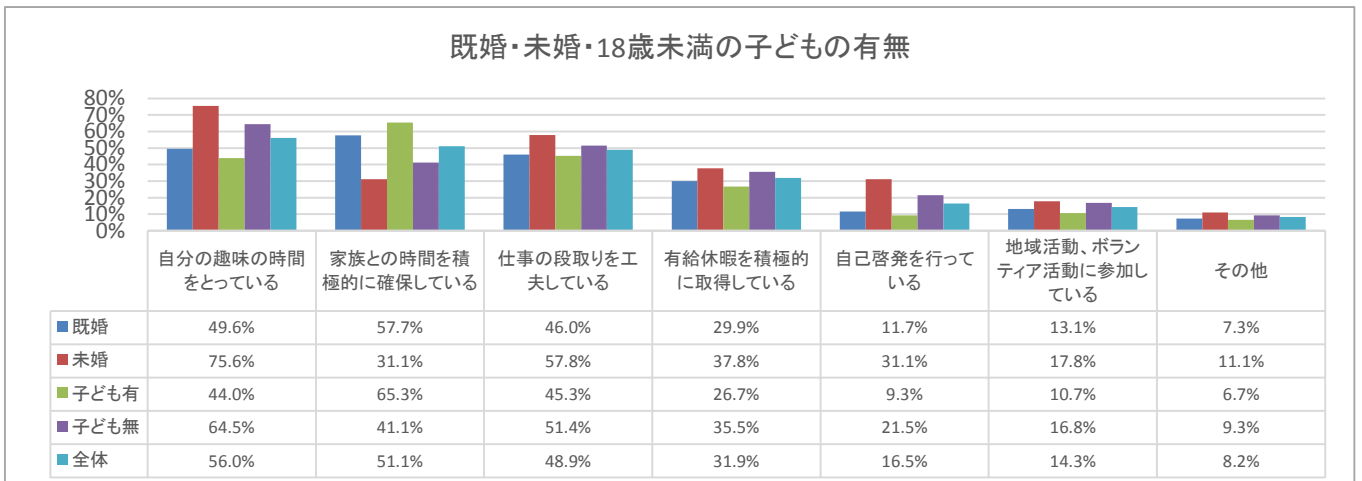
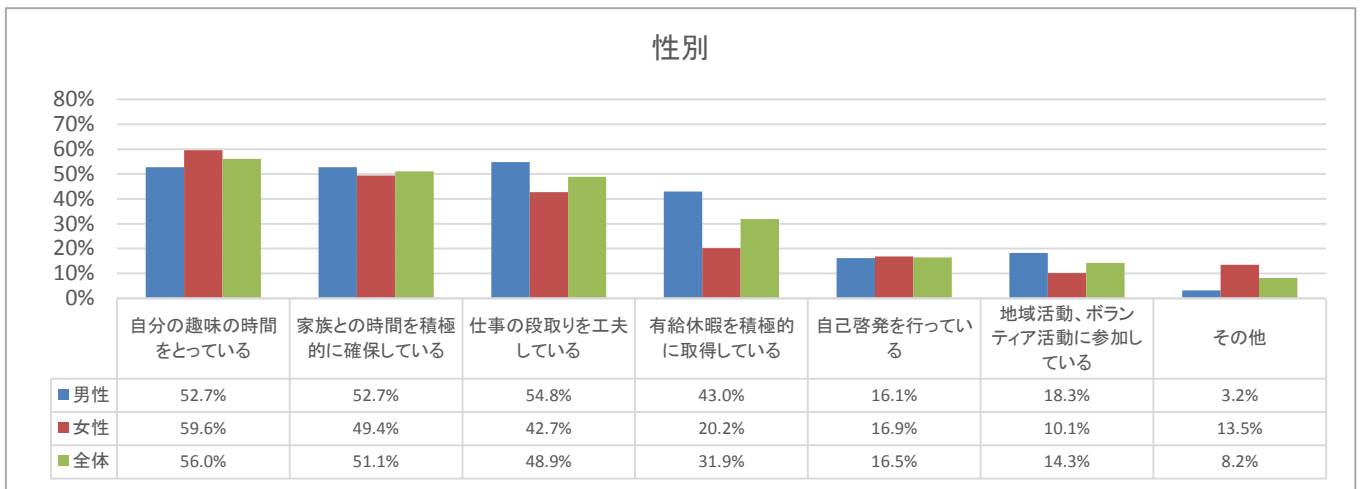
8. あなたはワーク・ライフ・バランスを実現していると思いますか？



「ワーク・ライフ・バランス」を実現しているかを尋ねたところ、「はい」が23.2%に対し、「いいえ」が38.9%、「わからない」が37.9%と比率が高く、特に40代は「いいえ」の比率が高い結果となりました。まだまだ理想的なバランスで仕事と生活を両立している人は少ないようです。

県別・性別で見ると、愛知県男性は「ワーク・ライフ・バランス」が実現できていると回答した比率が3県で一番高く31.5%であるのに対し、女性は15.7%と3県で一番低く、男女で大きく差があるようです。

9. 「はい」と答えた方は、ワーク・ライフ・バランスの実現のためにご自身で努力していることはありますか？

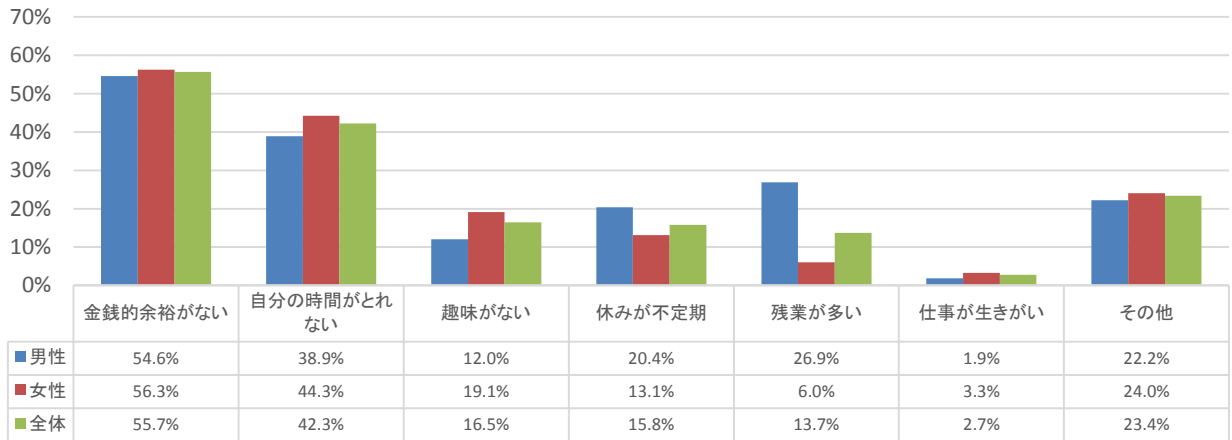


男性は「仕事の段取りを工夫している」が多く、女性は「自分の趣味の時間をとっている」が多い結果となりました。男性は「有給休暇の取得」という回答も目立ちました。未婚や18歳未満の子どもがいない方は「自分の趣味の時間をとっている」、既婚・18歳未満の子どもがいる方は「家族との時間を積極的に確保している」の回答比率が高い結果になりました。

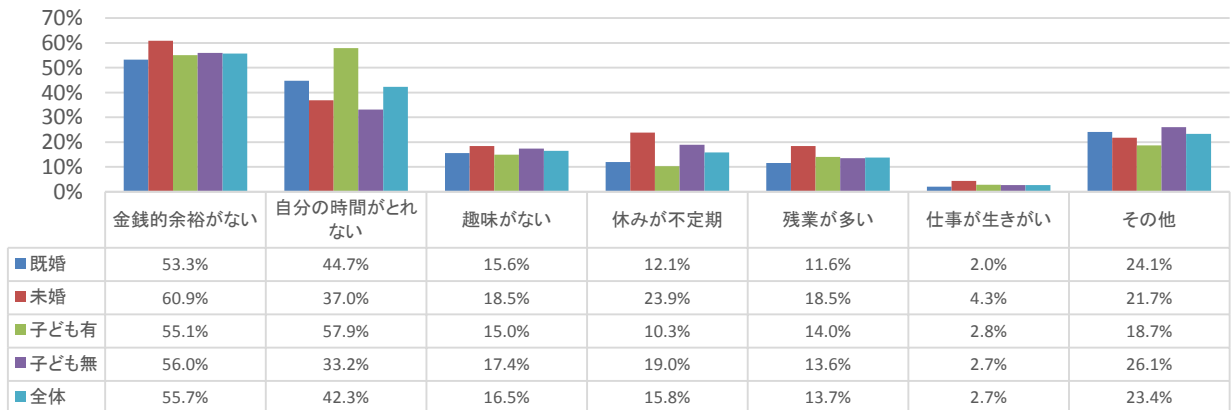
県別にみると、愛知・三重の方に比べ岐阜の方は家族との時間を重視しているようです。

10. 「いいえ」と答えた方は、その理由を教えてください

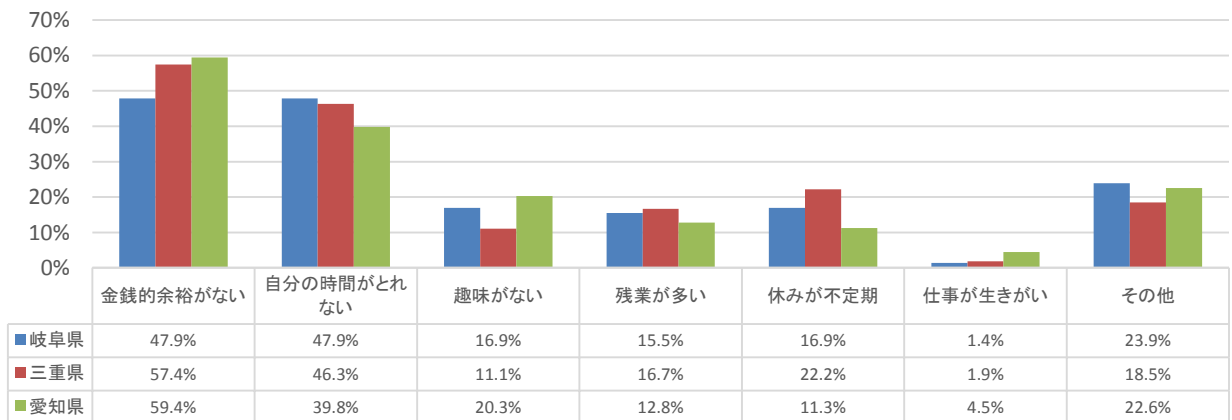
性別



既婚・未婚・18歳未満の子どもの有無



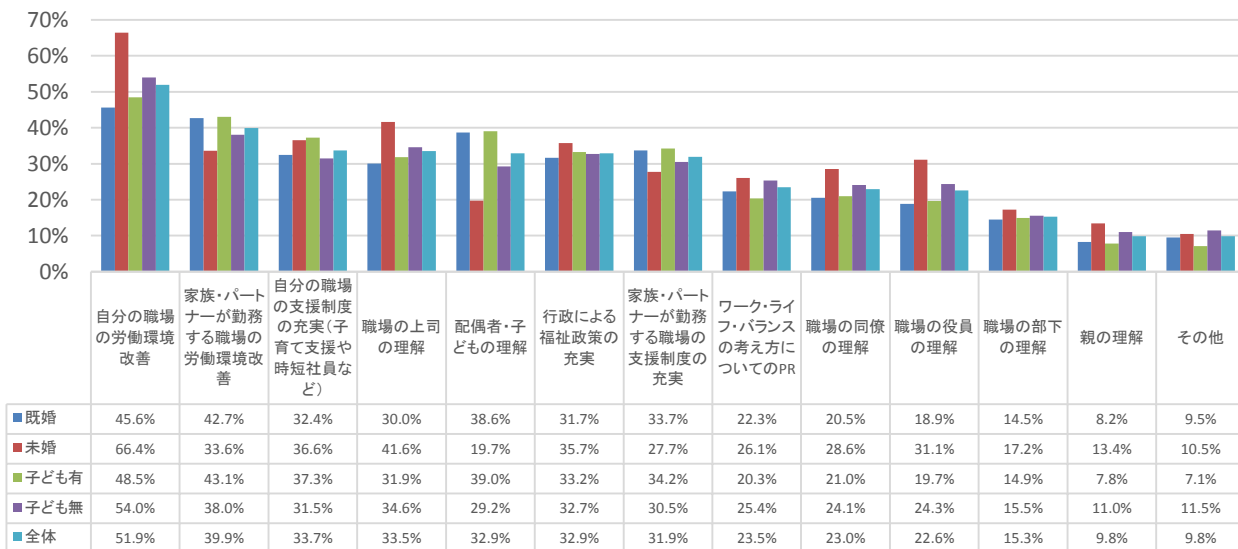
県別



「ワーク・ライフ・バランス」が実現できない理由としては、一番に「金銭的余裕がない」が挙げられました。男性は「残業が多い」ことも要因の一つのようです。子どもがいる方は「自分の時間がとれない」という回答が目立ちました。岐阜の方は「金銭的余裕がない」と「自分の時間がとれない」ことが同じ比率でした。8
岐阜県は共働き世帯が多いことが地域特性として反映されているようです。

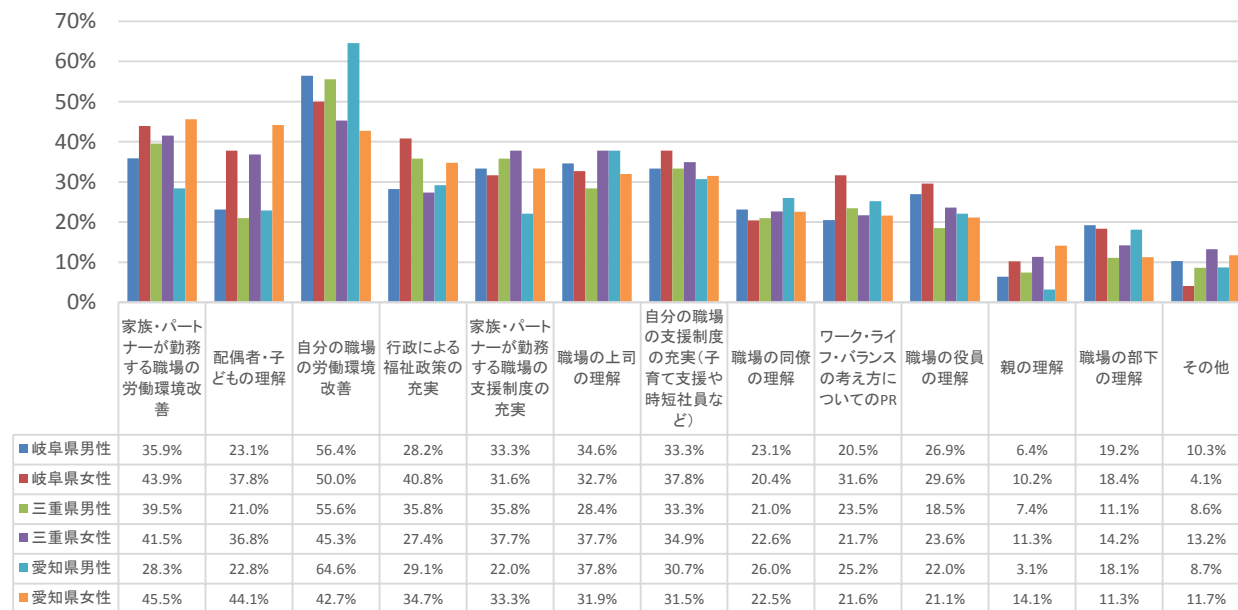
11. ワーク・ライフ・バランスの実現のために、必要なことは？

既婚・未婚・18歳未満の子どもの有無



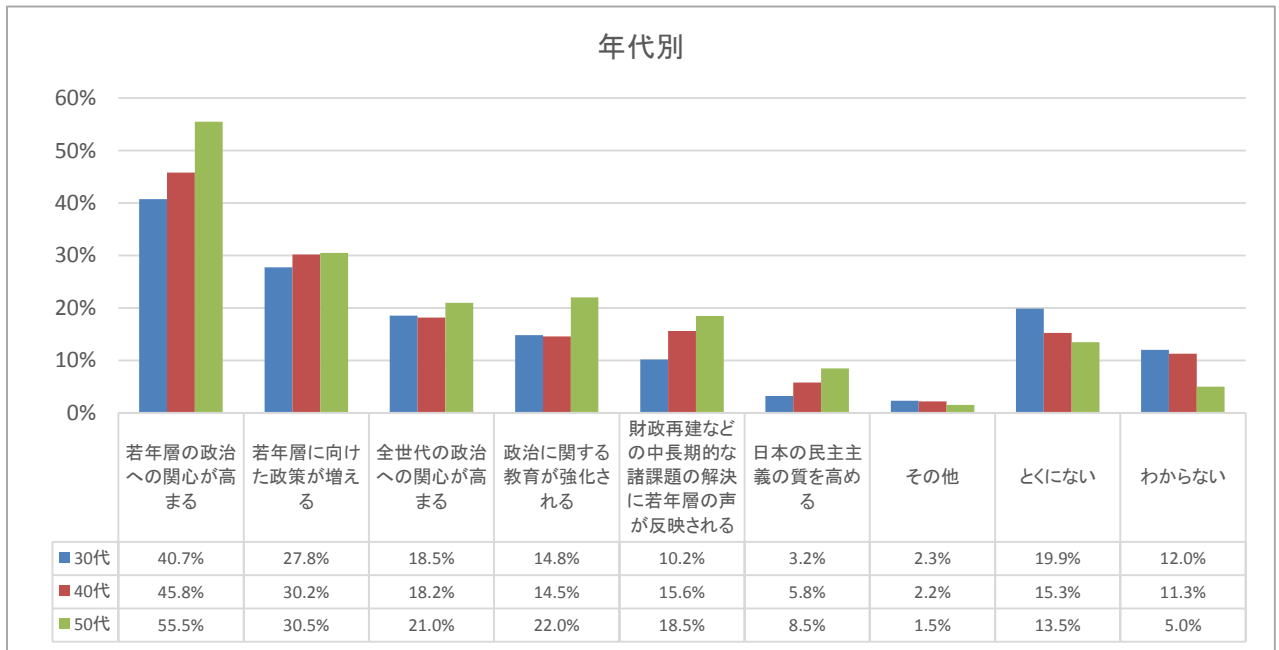
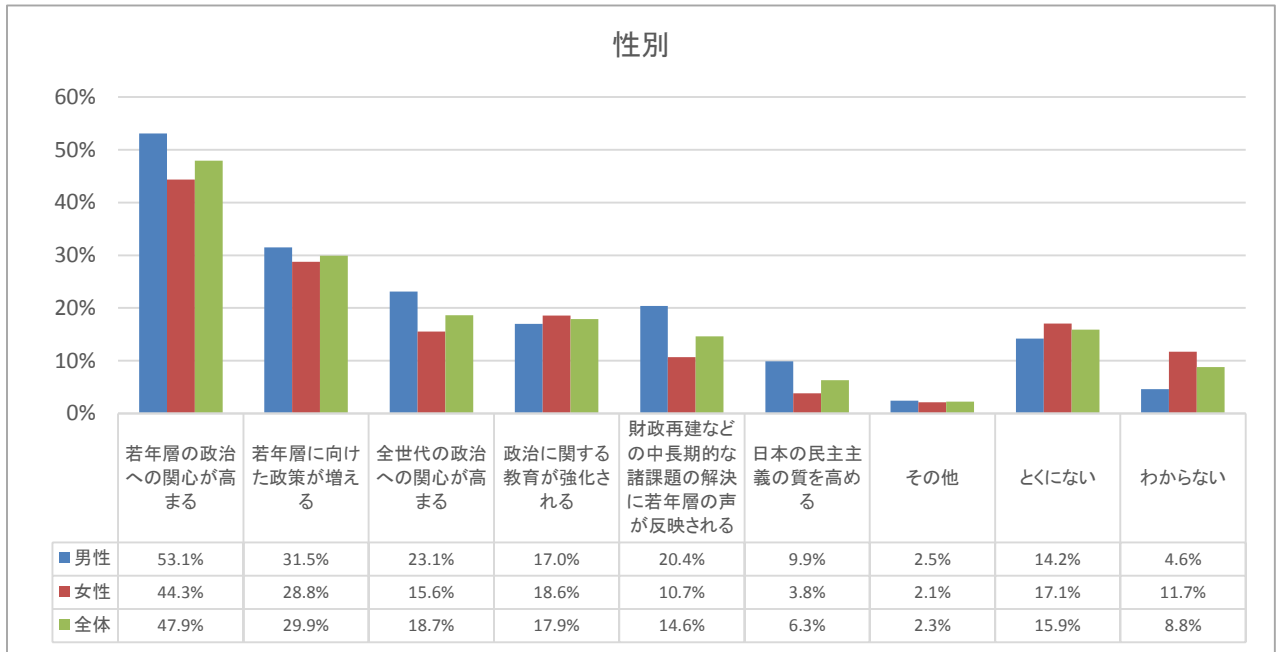
「ワーク・ライフ・バランス」を実現するためには、まず「自身の職場の労働環境改善」が必要が半数以上を占めています(51.9%)。特に未婚の方、男性が多く回答しています。さらに、未婚の方は「職場の上司や役員の理解」も必要と回答しており、既婚・18歳未満の子どもがいる方は「配偶者・子どもの理解」も必要との回答が目立ちました。

県別・性別



県別・性別でみると、愛知県男性は「自身の職場の労働環境の改善」の比率が一番高くなっており、愛知県女性も「家族・パートナーが勤務する職場の労働環境改善」を一番に挙げています。女性は各県ともに「配偶者・子どもの理解が必要」の回答比率が高くなっています。岐阜県の女性は、「行政による福祉政策の充実」や「ワーク・ライフ・バランスの考え方についてのPR」を求める声も多くありました。

12.18歳選挙権導入は今後どういった効果があると思いますか？



今回から始まる18歳選挙権導入について、8割以上の方が何らかの効果があると回答しています。特に「若年層の政治への関心が高まる」が最も多く47.9%、次いで「若年層に向けた政策が増える」が29.9%になっています。

中でも、50代は複数項目に回答いただいた方が多く、今回の制度導入への期待が伺えます。

18歳選挙権導入により、若年層が政治へ関心をもち、投票率の向上や若年層に対する新たな政策を期待していきたいですね。

【調査概要】

調査概要: 参議院選挙に関するアンケート

調査方法: モバイルフリモアンケート

調査時期: 2016年6月22日～6月24日

有効回答数: 10～70代 男性・女性 818名

回答者属性

	～9歳	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70歳～	合計
男性	0	0	1	3	5	16	52	44	62	59	58	21	11	2	334
女性	0	0	1	14	23	54	89	72	103	67	40	16	3	2	484
合計	0	0	2	17	28	70	141	116	165	126	98	37	14	4	818

既婚・未婚 既婚 566名 未婚 252名

18歳未満の子どもの有無 子ども有 308名 子ども無 510名

居住エリア 岐阜県 185名 三重県 197名 愛知県 353名 滋賀県 72名 その他 11名

【共同調査】

岐阜大学地域科学部 教授 三井 栄

専門: 計量経済学: 景気分析、数理ファイナンス、経済シミュレーション

『中部を創る～20人の英知が未来をデザイン～』中日新聞社(2010)「岐阜県観光産業におけるリニア中央新幹線東京名古屋間開業への期待－観光・宿泊施設の意識構造分析－」日本都市学会年報(2014)

【中広マーケティングリサーチについて】

「中広マーケティングリサーチ」とは、株式会社中広が運営するモバイルサイト「フリモ®」の会員に対しアンケート調査を実施するアンケート組織です。アンケート結果をサービス改善や資料作成に役立てています。

【フリモ®について】

「フリモ®」とは株式会社中広が運営する携帯ポータルサイトです。中部圏を中心に発行している各戸配布の生活情報誌と連動し、飲食店、ヘアサロン、整体、スクール、ハウジングなど、様々なジャンルが掲載されています。現在1道16県58エリアの情報を掲載しており、掲載店舗・掲載エリアを拡大しております。

<http://sp.furimo.jp/>

【株式会社 中広について】

株式会社中広は岐阜に本社を置く広告会社です。当社は、北海道・宮城・東京・愛知・岐阜・三重・滋賀・福井・群馬・埼玉・鳥取の1道1都9県下でメディア事業及び広告セールスプロモーション事業を展開しております。

1978年の設立以来、多くの方々に支えられ、2007年セントレックスに上場、2012年に名証2部、2014年に東証2部、2015年には名証1部、東証1部に上場致しました。

メディア事業においては、地域に根ざした生活情報を収集・編集して地域みっちゃく生活情報誌®を愛知・岐阜・三重・滋賀・福井・群馬・鳥取・埼玉の8県で55誌328万部を発行(VC含め90誌526万部)、無料で各家庭に配布しております。また、イベントセミナー事業(講演会・研修会・イベント)・クロスメディア事業(フリモ・通販・PR)を実施しております。

広告SP事業においては広告戦略・広告計画・販売促進計画を立案する総合広告会社として、スポンサーの要望に応える媒体選択、デザイン提案、販売促進策の企画運営を行っております。

<http://www.chuco.co.jp/>

株式会社 中広

本社: 岐阜県岐阜市東興町27番地

TEL: 058-247-2511(代)

創業: 昭和53年5月1日

資本金: 4億430万円

代表取締役社長: 後藤一俊